拷問は決して正当化されるものではない

2024/11/14

国連人権高等弁務官事務所

拷問等禁止条約（CAT）採択 40 周年を記念して開かれたハイレベル・イベントにおける、ヴォルカー・ターク国連人権高等弁務官の挨拶。
「40 年前の拷問等禁止条約の採択は、人権の歴史において画期的な出来事だった。この重要な式典は、行動への呼びかけであり、すべての国がその義務を再確認する機会である。私たちの社会は、より暴力的になり、より二極化しつつある。赤十字国際委員会の統計によると、世界中で 120 以上の紛争が起こっており、いずれも混沌とした状況になっている。ヘイトスピーチや差別はより一層広がり、コミュニティ全体がスケープゴートにされ、非難される。同時に、人権という価値観や規範に対するプッシュバックも見られる。拷問は正当化し得ないという基本原則でさえ、ここ数十年、繰り返し疑問視された。拷問の禁止は、絶対的な国際法の強制規範であり、条約批准の有無に関わらず、すべての人、すべての国に適用される。しかし、私の深い懸念は、拷問が私たちの世界を汚し続けているということだ。私たちのモニタリング活動や報告書の中で、拷問がどの程度取り上げられているかを見ると、胸が痛み、拷問やその他の残虐で非人道的な、あるいは品位を傷つけるような待遇や刑罰の報告が、ますます常態化していることを危惧している。私たちはこうした風潮を徹底的に、断固として、そして一丸となって拒否しなければならない。嫌悪感を抱かせるべきものが日常化してしまうことは許されない。」